

# SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：平成31年1月15日(火)  
(2019年)

地域企業紹介 59

## 古木建設株式会社

### 建設事業を通して広く社会に貢献

今年、創業67年目を迎える古木建設株式会社の古木賢治代表取締役社長を相模原市上鶴間の本社に訪ねました。

同社は、昭和28年4月に賢治氏の父である古木益美左氏により創業された。古木家の三男である益美左さんは丁稚奉公で習得した大工としての技術・ノウハウを武器に木造住宅の建築を手掛けたのが同社の始まりだ。折しも、同年に新しい駅舎となった東林間駅前に本社を構え、翌年(昭和29年)には相模原市制が施行されたときである。創業以来、「信頼」をテーマに掲げ、半世紀以上にもわたり、一貫してこの地に根を張り、建築・開発事業を通して地元の発展に努めてきている老舗建設業者だ。現在、建設事業を中心に不動産事業、メンテナンス・リニューアル事業に至るまで幅広く事業展開している。

建設事業部門では、木造から鉄骨・鉄筋造まで古木建設の技術力を結集し、オンリーワンの住まいを創造する「注文住宅」、会社や店舗イメージを印象づける外観デザインからビジネス効率を見据えた空間機能まで、独創的で付加価値の高いプランを追及する「業務用施設建築」、デザイン性、居住性、耐久、耐震性など、様々な面で入居者の厳しい選択眼に沿うと共に、地主さんの賃貸経営効率を高める上質な「集合住宅」を提案。同時に賃貸管理サポート、運用アドバイスをはじめ、細やかなバックアップサービスも提供している。また、地域を熟知した豊富な経験を活かし、小学校・医療センター・福利厚生施設など、コミュニティの発展に貢献する「公共建築」などにも幅広く活躍しているのが古木建設だ。

このように、同社は4つのカテゴリーにおいて「人と街、個性と調和の心豊かな共生」を目指したステージの創造をコンセプトに魅力あるプランを提案出来ることが大きな特徴といえるだろう。また、同社は建物の性能あと資産価値を「守り・高め・蘇らせる」技術としてメンテナンス・リニューアル事業に積極的に取り組んでいる。

建築施工のゴールは同時に維持管理のスタートとして、建物を良好な状態で出来るだけ長く維持するために同社独自の定期的な保守点検の導入と的確な補修改善を実施している。ちなみに2000年に完成したSIC-1も同社の施工によるもの。インキュベーション施設として築19年となるSIC-1は、創業間もない企業や新分野進出・研究開発を行っている成長性ある企業の方にご利用いただくために建設した。

古木建設株式会社  
代表取締役 古木 賢治 (ふるき けんじ)  
所在地：相模原市南区上鶴間 7-2-11  
従業員数：30名  
資本金：9,000万円 売上高：17億円  
事業内容：建設事業、メンテナンス・リニューアル事業、不動産事業  
URL: <http://frk.co.jp/index.html>

当時は「インキュベーションセンター」という言葉の意味も曖昧だった中、SIC創業当時の経営陣や相模原市の意向を丁寧に汲みとり、あまり前例がなかった「ラボ・セミラボ・オフィス」複合型の建物をローコストかつ機能性優れた建物に造り上げて頂いた。お陰様で、それが今でも高い入居率をキープしている大きな要因の一つとなっている。また、定期的なメンテナンスの他、急なアクシデント時にも同社の社員さんが親切かつスピーディーに対応してくれている。

不動産事業では、不動産仲介・賃貸管理をはじめ、ゆとりと安心が息づく高級分譲マンション「ウッドコート」シリーズをはじめ、コストパフォーマンスに優れた「プレミール」、優雅な一戸建ての街並みを造る「プレミールアベニュー」シリーズなどを手掛けた販売実績を持つ。昭和30年代の高度経済成長期からオイルショック、昭和60年代のバブル経済とその崩壊、リーマンショックや東日本大震災など「激動する時代」を乗り越えてここまで来られたのは「時代の変化と多様化するニーズを的確に捉え、堅実かつ地道に地域と密着した仕事を数多く手がけてきた結果であり、節目では“運”もあった」と古木社長は回顧する。

そんな古木社長は生まれも育ちも相模原市、小学生の頃は両親共に仕事が忙しく、いわゆる鍵っ子だった。そのため、叔父が営む“そば店”で食事をとることが多く、その頃の将来の夢は「蕎麦屋さんになる」ことだったそうだ。中学生になると、何となく「父の後を継ぐのだろうな」と思うようになり、その後は建築を学べる環境に進路を向けるようになった。ちなみに父益美左さんは口には出さないまでも賢治さんに「一級建築士」の資格を取得してほしいという願望があったようだ。

そんな思いを感じ取った古木社長は、当時、土木建築といえば日本大学ということで、日本大学藤沢高等学校を経て日本大学生産工学部へ進学した。大学卒業後は、横浜にある中堅建築会社に入社すると共に、目標としていた一級建築士の資格取得を目指す。現場を中心とした実務経験などを生かし、学科試験及び設計製図試験に見事合格。同時に「宅建主任者資格」(現:宅建取引士資格)も併せてスピード取得し、約3年間の修業期間を経て古木建設に入社した。

同社入社後の古木社長は、経営において重要性の高い経理部門の改革を推進した。業種柄、仕訳・勘定が多岐にわたり、取引金額も多額に及ぶ中、現場と経理部門の数字が一致せず、決算の都度相当な労力を費やすことがしばしばあったためだそうだ。若い頃からオフコンやパソコンに強い古木社長は「2000年問題対応」をはじめ「原価管理システム」など各システムを自らプログラミングし、自社独自の管理システムを構築した。定期的なメンテナンスを自ら実施し、事務処理の正確性・効率アップをはじめ、ランニングコストの削減も図っている。

今後、建設業者として施工技術面における差別化はもちろん、お客さまをはじめ社員同士でも「おもてなし」の心が発揮できるような“アットホーム”な職場環境を構築したい。同時に、現場におけるトラブルは注意していても100%避けることは出来ない。だからこそトラブル発生時にスピーディーかつ最適対応を図ることで、お客様からの「信頼」を獲得していきたいと現場重視の姿勢を強く語る古木社長。創業以来、半世紀以上にわたり培ってきた実績をベースに、次の半世紀をしっかりと見据え、建設事業を通して広く社会に貢献する古木建設の可能性と拡がりは無量大だ。

# 「ものづくりパートナーとして、さらなる高みを目指す！」

株式会社アド・ソアー



川崎市高津区のKSPに本社を置き、即戦力のエンジニアを開発の現場に送り込む「技術支援サービス」、さまざまな開発テーマを請け負う「受託開発サービス」を展開している株式会社アド・ソアー エンジニアサービスセクション 相模R&Dセンターの前田 高嗣センター長にお話を伺いました。

1996年にAdvanced technology, Adventure, Adhocracyの3つのADにちなんだ社名“アド”として創業、昨年7月に現在の社名で新たなスタートを切りました。新社名には“高く舞い上がる”という意味を持つSoarという言葉が組み合わされ、お客様と自社をさらなる高みに導くと

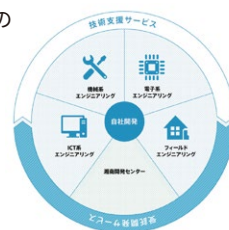
いう思いを込めています

機械設計技術者の派遣事業から始まったアド・ソアーは、無線通信技術を活かした電子系エンジニアリング事業、Webシステムから業務ソリューションまでをサポートするICT系エンジニアリング事業、エネファームシステムのメンテナンス、さらには次世代型社会インフラ構築を目指すフィールドエンジニアリングにも事業領域を広げています。

2009年に開設された相模R&Dセンターは、当初、相模原市内に構えていましたが、技術者やその他のスタッフ数が増え、また、本社で行っていたホビー関連の開発・設計業務を相模R&Dセンターに移管することになりSICへ入居しました。相模R&Dセンターの所属スタッフは派遣技術者を含めると100名を超え、ラボ内では受託開発・設計業務や技術者養成を行い、技術者派遣先への営業やフォローアップの拠点に

なっています。

「新分野として展開しているホビー関連の事業を成長させていきたい。ホビー市場は底堅い市場でありながら、設計、製造方法は進化を続け、ニーズも多様化しています。だからこそアド・ソアーがこれまでに積み上げてきた強みを活かせるはず。派遣型サービスと共に受託開発・設計業務も拡大しながら、工学技術分野の課題に対して「総合力」と「対応力」さらに「創造力」でお客様のものづくりの未来を切り拓く会社として成長していきます。」と前田センター長は話してくださいました。



株式会社アド・ソアー 相模R&Dセンター  
SIC-1205号室 URL: <http://www.adsoar.co.jp/>







# 年頭挨拶

新年 明けましておめでとうございます。  
皆様におかれましては健やかに新春を迎えられたこと  
とお慶び申し上げます。

お正月恒例である「第95回箱根駅伝」は、東海大学が46度目の出場で初の総合優勝を果たし、青山学院大学の5連覇を阻止した結果となりました。ただただ、ひたすら走るだけの競技が、百年近くもの間、なぜ継続されてきたのか、箱根駅伝の魅力とは一体何なのだろうか。箱根の難関コースを目指す醍醐味、櫂をつなぐチームとしての固い絆、各選手が限界に挑み困難を乗り越えていく姿など、そこには筋骨きのない感動のドラマが沢山生まれるからでしょう。そして、何よりも“正々堂々”と戦う若者の汗と涙の結晶を垣間見ることができるからだと思います。改めて、箱根駅伝を通じて、正々堂々と真向勝負する素晴らしさを年頭に感じることは大変意味深いことではないでしょうか。

さて、日本能率協会調べによる日本企業の当面の経営課題2018では、第1位に「収益性向上」、第2位「人材の強化」、第3位「売上・シェア拡大」が挙げられています。リーマンショック後に低迷していた大卒の求人倍率は6年連続上昇、2015年3月期卒を境に学生の売り手市場となり、2019年も続く見込みです。こうした中、各企業とも「人材の強化」を課題とする比率が前年比増加傾向となっています。また、「働きがい・従業員満足度・エンゲージメントの向上」に関する課題も大きくランクアップしています。足元の人手不足に対応すると共に「働き方改革」による生産性向上や多様な働き方への対応のみならず、中長期的な事業の成長を支えるためにも、人材の確保・育成・社員の意欲向上を重視していることが背景にあるものと思われます。日本経済を支える中小企業・小規模事業者にとって極めて悩ましい問題ではありますが、今後、自社の安定成長を図っていく上で、欧米・中国における政治経済動向を注視すると共に、「働き方改革」への対応などを踏まえ、人材の確保や収益性・生産性向上に向けた経営計画の検討見直しを行っていくことが、今まで以上に大事になってくるでしょう。

そして今年、平成の時代に幕が下り、新しい年号へと移り変わる歴史的な年を迎える中、私どもさがみはら産業創造センター(SIC)は、お陰様で、「創立20周年」を迎えます。これも、偏に入居企業並びに地域企業の皆様、相模原市・中小機構をはじめとする株主の皆様方の絶大なるご支援の賜物と心より感謝申し上げます。同時に今年も、既存棟のSIC-2に新たに「研究開発型企業向け高機能なラボ・セミラボ」を増築し(7月完成予定)、ロボット・バイオをはじめとする成長産業分野の優れた企業の集積を図り、地域産業を牽引する企業の成長支援と連携を推進してまいります。

新時代のスタートとなる年に、新たなステージに立つSICは、これからの20年を見据え、入居企業及び地域企業の発展成長につながる支援・サービスにスタッフ一同取り組んでまいります。

結びにあたり、この一年が皆様方にとりまして、幸福で実り多き年になりますことを心より祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞ よろしくお願ひ申し上げます。

株式会社 さがみはら産業創造センター  
代表取締役 **橋元雅敏**



## 蔵元佳肴 いづみ橋

「蔵元佳肴(くらもとかこう)いづみ橋」は、JR海老名駅から徒歩5分、お酒の一斗瓶の照明が漁火を思わせる和風の玄閣通路の奥にあります。

1857年創業の泉橋酒造が伝統的な生酛(きもと)造りを守り「料理と合わせてこそ旨い酒」として造られた日本酒に蔵元が惚れ込んだ仙台出身の根本料理長が地元の旬の食材を使った料理を合わせるペアリングが楽しめます。本日は、新酒、火入れ酒、純米梅酒の七種の日本酒と料理を味わいました。フレッシュな新酒、深みのある火入れ酒、まろやか梅酒、それぞれの個性に地元神奈川の肉、魚、野菜、果実そして料理長出身地の魚が応えます。はまぐりと帆立の酒蒸し、なめた鮎の煮つけ、やまゆり牛すね麹味噌煮込みなど全八品、地元のお酒と食材、同じ土地でつくられたものは相性が良いとの料理長の言葉を五感でいただきました。(稲垣)

海老名市扇町12-33 フィールズ三幸1階 Tel. 046-240-9703  
営業日・時間 完全予約制 火~土曜日 16:00~22:30(L.O 20:00)  
日曜・祝日 14:00~20:30(L.O 18:00)  
定休日:月曜日他 URL: <http://izumibashi.com/kakou/>



SIC  
食のさんぽ道

## SIC 地域企業 サポート事業の紹介

前回に引き続き、地域企業サポート事業の支援の現場の事例をご紹介します。企業の皆様と専門家とのお引き合わせから業務調整、進捗管理までSICスタッフがを行います。ぜひ、ご相談ください。



### ①ものづくり支援

(さがみはら表面技術研究所:市内中央区上溝SIC-3内)

#### 公的助成・委託事業申請サポート

公的助成金事業等の申請書作成のサポート、連携体のコーディネート、マネジメントを行います。



経産省/中小企業庁(通称)ものづくり補助金では、多種多様な製造業に向けて、技術経営課題を解決し自社の長を強化するための計画となる申請支援、および事業遂行フォロー等の支援を行っています。申請支援では、毎回高い採択率の実績があります。

#### 分析評価サポート

各種試験機関等のネットワークを活かし、お客様の目的やニーズに合わせて、適切な分析委託先の調整から分析結果に対する解析・評価までをワンストップにて行います。



製造時不良発生の原因究明において、電子顕微鏡による形態観察(表面や断面)、並びにミクロンレベルでの高性能な機器分析により、不良発生の原因メカニズムの解明などを行っています。経験豊富な目利き力で分析機器の選定・適正な納期・価格をご提案いたします。



### ②労務支援

(鈴木道士行政書士・社会保険労務士事務所:市内緑区東橋本)

#### 労働社会保険手続業務

労働社会保険手続全般、また、労働者派遣事業許可及び職業紹介事業許可取得の手続を行います。



労働・社会保険手続を従来の紙で行っていた事業所様に対し、社会保険労務士の電子申請での一括管理に切り替え適正な手続を支援致しました。また、法改正が多く複雑な労働者派遣事業許可及び職業紹介事業許可申請にも対応し、迅速な許可の取得を支援しています。

#### 労務管理相談・指導業務

法律改正の多い、労働基準法、労働契約法、その他労働安全衛生法の法令遵守のアドバイスを行い、労働災害の防止及び労働基準監督署調査立会い、是正勧告対応を行います。



中小企業が最低限守るべきコンプライアンスを提案し、働きやすい職場環境の実現を支援しています。また、労働災害の防止及び発生後の再発防止策支援、労働基準監督署の調査立会い、是正勧告対応も行っています。

## 2019.1 SIC EVENT CALENDAR イベントカレンダー

- 1月16日(水)～18日(金) ロボテックス ロボット開発・活用展
- 1月23日(水)～25日(金) Sier養成講座(4日目～6日目)
- 1月29日(火) 生産性向上のためのV Eセミナー
- 2月 8日(金) ジョブトーク(サガツク)
- 2月13日(水)～15日(金) Sier養成講座(7日目～9日目)
- 3月 5日(火) ジョブミーツ(サガツク、合同就職説明会) 17th
- 3月 7日(木)・8日(金) ロボット操作教育(基礎コース)
- 3月20日(水) ジョブミーツ(サガツク、合同就職説明会) 18th



## 入居企業を募集してます。

SIC空室情報 (平成31年1月15日 現在) ※お気軽にお問い合わせください。

部屋	空室数	賃料/月額 (共益費込・消費税抜き)
SIC-1 ○スモールオフィスA (23.6㎡)	1	78,700円
SIC-2 空室はありません	-	-
SIC-3 空室はありません	-	-

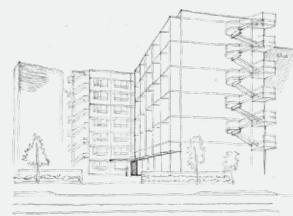
詳しくは、SICホームページをご覧ください。

<https://www.sic-sagamihara.jp>

### 編集後記

明けまして おめでとうございます。昨年8月からSIC-2増築棟(仮称)工事が始まり、工事現場を肉眼で(SIC-2の事務室から)これほど近くで見ることが出来る日々も、もう少しです。

建築幕が張られ、そして取り除かれるまでの間はホームページ上で幕の内側を見ていただける予定です。今年夏の竣工まで、引き続き進捗状況の掲載及び増築棟の詳細も掲載して参ります。4月に発表される予定の新元号と共に楽しみです。本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。



(株)さがみはら産業創造センター(SIC)  
〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21  
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077  
E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ご意見・ご感想を  
お待ちしております。

ウェブサイト <https://www.sic-sagamihara.jp/>